

■現行計画における施策体系

分野	分野別の目標	基本的な方向
5 国際 交流	1 国際理解を進める機会づくり	(1) 国際理解の推進
		(2) 多様な文化を学べる機会の充実
	2 国際交流を進める機会づくり	(1) 交流の機会の拡充
		(2) 交流を支える人材の育成及び支援
		(3) 交流拠点の充実
		(4) 姉妹都市等、海外都市との交流の活性化
	3 外国人が快適に暮らせる環境づくり	(1) 外国人の暮らしの支援
		(2) 地域活動への参加促進

■現行計画における目標ごとの課題認識

分野別目標1 国際理解を進める機会づくり

- 課題① 国際理解に関する講座を効果的に実施する
- 課題② 文京区の魅力を外国人に伝える
- 課題③ 区内大学を活用した国際理解講座の実施・事業での協働

分野別目標2 国際交流を進める機会づくり

- 課題① 国際交流のきっかけとなる情報や機会の提供
- 課題② 国際交流団体、区民、大学、事業者等の連携の仕組みづくり
- 課題③ 国際交流を担う人材(区民)の育成・支援
- 課題④ 区民と外国人と気軽に利用し、集うことのできるスペースづくり
- 課題⑤ 海外都市との交流の推進と周知

分野別目標3 外国人が快適に暮らせる環境づくり

- 課題① 外国人に大きな困難を感じさせない多言語対応
- 課題② 日本語習得支援の充実
- 課題③ 外国人と区民の交流や活動のための機会づくり

■分科会・アンケート・社会動向に見られる課題認識

1. 区民目線の課題(第1回分科会での意見より)

- 区民の国際交流に対する関心が薄く、「交流」という言葉が敷居の高さを感じさせてしまい、気後れさせている
- 区民(若者)と外国人が国際フェスタ等の事業で協力できる機会があるとよい
- 留学生は多く、事業の対象にもなっているが、区に住む期間が短い
- 姉妹都市の存在を区民が忘れがちなので、情報発信をした方がよい

2. アンケートから得られる課題(外国人支援中心)

- 外国人の住みやすさのために日本人がすべきこととしては「あいさつを交わす」「文化の違いを知る」「先入観を持たない」が挙げられており、受容・包摂に対する意識の必要性が感じられている
- 外国人の住みやすさのためには「日本の生活習慣の理解」「言葉を学ぶ」「あいさつをする」など、日本を知ることが求められている
- 外国人の住みやすさのために区が行うことは、第一に「交流機会の提供」が挙げられており、日本語学習・生活支援は次点になっており、実質的な支援よりもコミュニティに溶け込むための機会提供が求められている

3. 国・東京都の計画から導かれる課題

- 〈国〉地域における多文化共生推進プラン
 - 外国人住民の受入れ主体としての地域
 - 外国人住民の人権保障
 - 地域の活性化
 - 住民の異文化理解力の向上
 - ユニバーサルデザインのまちづくり
- 〈東京都〉東京都長期ビジョン
政策指針3「多言語対応の推進により、全ての外国人が快適かつ安心して滞在できる都市の実現」
 - ・交通機関における多言語対応
 - ・飲食店や宿泊施設における多言語対応等
- 政策指針18「東京、そして日本を支える人材の育成」
 - ・グローバル人材を育成する教育環境を整備
- 〈東京都〉東京都都市外交基本戦略
 - 2020年大会の成功
 - 大都市に共通する課題の解決
 - グローバル都市東京の実現

4. 区の動向

- UNWOMEN 事務所が文京シビックセンター内に設置
- 東京大学が目白台に留学生宿舎を設置
- JICA との連携事業

5. 社会動向から導かれる課題

- グローバル化による外国人住民の増加
- オリンピック・パラリンピックを機とした交流の活性化

■課題のまとめ

- ◎国際交流・国際理解に対する区民の動機づけ
- ◎国際交流を担う人材の育成・活用
- ◎区内の資源(大学、留学生、区民、UNWOMEN 等)の活用
- ◎多言語対応の推進
- ◎区民と外国人との交流機会の拡充
- ◎海外都市との交流の推進と区民への情報発信
- ◎外国人の住みやすさのための受容・包摂の推進